

千葉県社保協通信

2021年度 — No8 2021年 9月17日号

〒260-0854 千葉市中央区長洲 1-10-8 自治体福祉サカビル 3F

TEL : 043-225-6790 FAX : 043-221-0138 Eメール syaho2006@star.ocn.ne.jp

憲法 25 条活かす社会に向けて 総選挙を「改革」の第一歩に!!

75 歳以上の医療費

2 倍化を実施させない 学習決起集会

県内の年金者組合・保険医協会・民医連・高齢者連絡会・社保協の5団体がよびかけ、16日(木)午前、千葉市内の自治体福祉センターで開催した「学習決起集会」にはオンラインを含め34人が参加しました。

いずれ「全員2倍」「全員3倍」への入り口

藤田まつ子県社保協事務局長の開会あいさつに続いて、岩崎勇年金者組合県本部委員長が「国民的なたかいで2倍化を中止させよう」と問題提起。

6月4日に成立した75歳以上の2割負担化の根拠となる法律を再確認し「条文には、政令で定めるところにより算定した所得の額が政令で定める額以上である場合百分の二十としている。つまり、所得額も政府が政令で決められることができるということだ」と述べ、年収200万円以上という線引きも変更可能であるという問題点を指摘。さらに束ね法案で議論を尽くさず、自公、維新、国民民主が強行採決した経緯を説明しました。

“消費税は社会保障のため”は欺瞞

また、2008年の制度発足当時を振り返り、厚労省で制度設計に携わった官僚の「医療費が際限なく上がっていく痛みを後期高齢者が自ら自分の感覚で感じ取っていただく」との発言をあげ、狙いは「医療費抑制」であり、消費税は社会保障の為に使うということは全くの欺瞞だ」とキッパリ。

「国民皆保険」なら「窓口負担ゼロ」こそ

そして、「国民皆保険のためには窓口負担をゼロにすべきだ。我々は保険料と窓口負担の二重取りを当たり前とっていないか。健康は自己責任と割り切るのはいかがなものか」と訴え、「憲法25条どおりの社会に向けて、秋の総選挙を「改革」の第一歩にしよう。運動を強めて政治を変えよう」と呼びかけました。



岩崎勇年金者組合県本部委員長が
問題提起しました。

暮らし・いのち・健康 脅かす2倍化・・・ 受診しやすい環境づくりこそ重要

続いて中村誠二氏（歯科医師・県保険医協会）が窓口負担の倍増による受診控えについて報告。①治療の遅れによる重症化 ②口腔環境が悪いほど認知症になり易い ③むし歯菌・歯周病菌により「免疫バリア」が壊され、ウイルス感染し易い ④菌が毛細血管から血流に乗り、脳卒中、狭心症、肺炎、気管支炎等を発症させるリスクが高まることを説明。受診しやすい環境整備の重要性を説きました。

また阿部礼子氏は、民医連が行った「75歳以上医療費窓口負担2割化に関するアンケート」の回答から寄せられた声を紹介。「医療費の支払い困難を理由に受診をためらったり、控えたりしたことがある」との回答は約2割。高齢者の暮らし、いのち、健康を守るうえで大きな影響を及ぼす」と話しました。

地域から 運動を広げ 2倍化中止を!!

休憩をはさんで、平野克美氏（年金者組合東金支部長）、根本敦子氏（白井社保協）が地元の2月市議会での陳情・請願の取り組みを報告。東金市議会は「75歳以上の医療費窓口負担について原則1割負担の継続を求める意見書」を採択し、国へ意見書を提出したことを紹介。 -2021.3.10付通信参照-

鈴木英雄氏（県社保協国保部会）は県後期高齢者広域連合・議会のしくみ等の問題点を指摘。

秋元稔氏（県高齢者連絡会）が、下記の4点の行動を提起。拍手で確認し、閉会しました。

〈行動提起〉

1. 2022年3月末まで、高齢者の1割(後期高齢者人口約85万人の1割→85,000筆)を目標に「高齢者の人権・命・健康脅かす医療費窓口負担2割化中止を求める」署名に取り組みます。
一地域の老人クラブ等の団体に申し入れます一
2. 衆議院選挙に向け、予定候補者へ要請し、署名主旨への賛同を広げる取り組みを進めます。
3. 12月定例県議会及び市町村議会への請願に取り組みます。
4. 千葉県後期高齢者医療広域連合及び広域連合議会に申し入れ等を行います。